

平成 25 年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : 日本電信電話株式会社

研究開発課題 : 先進的 ICT 国際標準化推進事業「次世代ブラウザ技術を利用した災害時における情報伝達のための端末間情報連携技術」

研究開発期間 : 平成 24 ～ 26 年度

代表研究責任者 : 片岡 良治

■ 総合評価 : 適 (適 / 条件付き適 / 不適の3段階評価)
(評価点 19 点 / 25 点中)

(総論)

先進的な取り組みとして評価できる。今後標準化や事業化に向けた取り組みも強化した上で、更なる研究成果の上積みが期待される。

(コメント)

- 丁寧に技術領域を固め、標準化による事業フィールドを創るべく努力が期待される。
- 非常に興味深い技術だと思う。今後更なる研究成果の上積み期待している。
- 先進的な取り組みであり、ぜひ世界をリードして進めて欲しい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

計画通りの成果が得られており、一部の要素技術の検討は先行して取り組まれている。

(コメント)

- デジタルサイネージ5台による実験に替えて、サイネージ端末とユーザ端末の連携の実証を先行させたことで、当初の計画より先行した取り組みがなされている。
- 一部の要素技術検討が先行して取り組まれている。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

予算計画書等に則り、適切な執行が行われている。

(コメント)

- 予算計画書等に則り、適切な執行が行われている。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

意欲的な目標をうまく具体化している点で優れた取り組みが認められる。

(コメント)

- 意欲的な研究開発・目標をうまく具体化できている。
- 将来の標準化すべき全フィールドを明確にして、取り組むべき標準化を進めて欲しい。
- 災害時に情報を流通させる技術を共通インフラとするために、より広い視点で国際標準化に取り組んで欲しい。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

既設サイネージを活用する等、成果を高めるための優れた取り組みが認められる。被災地との更なる連携が期待される。

(コメント)

- 東北地域でのフィールドテスト等、被災地と連携して進めて欲しい。
- 既設のサイネージ等があるフィールドを選定し、インフラにお金を掛けずに研究を計画している点は評価できる。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

関連会社との連携体制を構築している点は評価できる。今後の事業化にあたって更なる連携体制の強化が期待される。

(コメント)

- 関連会社と密接な連携体制を構築している点で評価できる。
- 今後の事業化にあたって事業会社との更なる連携が期待される。